

土浦平和の会

ニュースNO・119 2002年 7月-2

鹿児島 — 知覧の旅 牛久あひるの会 番場 たえ子

今回の旅は、私にとって初めての一般のツアーの旅。知覧に行かないかと声がかかり参加しました。昨年映画「ほたる」で特攻隊の出撃場所での物語を観て、本を読み、その場所をぜひ自分の足で訪ねてみたいと思っていました。幸いにも今度訪れることが出来て、感じる事が多くありました。

復元された富屋食堂の資料館の2階では、食堂の主人の鳥浜トメさんの話がビデオで上映されていました。

1階の方は隊員の方々の遺品、遺書等が当時のように保存されて展示されていました。トメさんの2番目の娘さんが、当時の隊員の生活の様子、結婚するときの様子などを話してくれました。1歳と3歳の娘とともに、特攻隊員の夫に気を遣わないように、心おきなく飛び立てるようにと、先に命を絶った妻のこと、自分の残りの人生を“おかあさん”（トメさんのこと）にあげるから長生きしてくださいと言い残して出撃したという様々な思い出を語り続けて行きたいと言っていました。2階のビデオは町から借りて上映するとのこと、自分たちのビデオはかつてに上映することができないと係りの人が語っていました。多分特攻隊を営利目的に利用される事への懸念からだと思います。

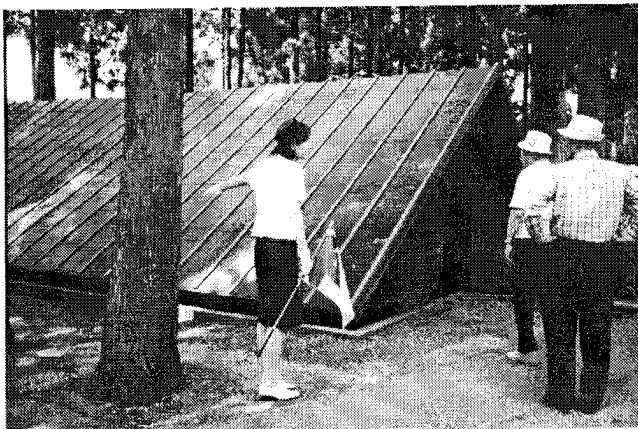
鳥浜トメさんが尽力をしたといわれる献灯は平和公園に数多く設置されて、道の両側に並んでいました。特攻で帰らぬ人となった1、036柱の分を建立するつもりと聞きました。平和資料館内はビデオ上映や遺品、遺書の展示、海中から引き上げたぼろぼろの特攻機も置かれていました。

修学旅行の小・中・高生も多数いて、子ども達の千羽鶴もたくさん吊されていましたが、どんな気持ちで観ていったのかなど。なにか平和につながるものが心に残ればいいと感じました。

資料館の外には三角兵舎も復元されていました。中にはいると、寒さが厳しいときは大変だろうなと想像される建物でした。

この犠牲の上にある平和な時が流れているので、この平和がずっと続くように、今の憲法が変わることのないように、自分たちで伝えていかなければならないと思いました。

戦争は起きないと思っている人がたくさんいるので、21世紀を平和な世紀でありますように願っています。



知覧三角兵舎の前で